

会報

むすび

第44号

令和2年3月吉日

発行所

栃木県青年神職むすび会

広報委員会

発行人

田邊 雅祥

印刷所

晃南印刷株式会社





令和元年度昇級者祝賀会・懇親会

目 次

会長挨拶	1
天下大祓	2
大嘗祭悠紀地方斎田抜穂の儀	3
新帝陛下御即位奉祝御朱印展	4
御大礼奉祝とちぎの神社御朱印展	5
神道青年全国協議会夏期セミナー参加報告	5
祭式研修会、親睦会	6
御田植祭、抜穂祭	7
令和元年度むすび会事業報告	8
令和二年度役員・正副委員長名簿	9
新入会員紹介、祝・御結婚、御誕生	10 11
賛助会員御芳名	12 14
協賛広告	15 17
編集後記、広報委員会名簿	18



会長挨拶

栃木県青年神職むすび会
第二十四代会長　田邊 雅祥

天皇陛下におかれましては御大礼の諸儀恙無く厳粛裡に取り納められましたこと謹んでお慶び申し上げますとともに皇室の弥栄をお祈り申し上げます。また昨年の台風十五号・十九号の被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興がなされますことをお祈り申し上げます。常日頃、皆様には栃木県青年神職むすび会の諸活動にご理解、ご協力を賜っておりますこと厚く御礼申し上げます。また先輩諸兄の皆様には多大なる贊助をいただき合わせて感謝申し上げます。

会長という重責を仰せつかり、甚だ至らない乍らも役員はじめ会員の皆様のおかげにて一年目を無事に務めることができました。昨年は御代替りに伴い天皇陛下御即位・御大礼奉祝の事業が数多く行われました。五月に天皇陛下が第百二十六代天皇として践祚あそばされ令和の御代が始まり、同十三日に斎田点定の儀にて栃木県が榮誉ある令和の悠紀地方に卜定されたことにより、県神社庁では各支部にて奉祝田事業が行われ、当会も奉祝田標柱の清祓等に携わさせていただきました。また県内神社の参詣促進、御代替り・御大礼の奉祝機運を醸成すべく、天皇陛下御即位奉祝・御大礼奉祝事業として二度の御朱印展を開催いたしました。さらに神道青年全国協議会の事業として、御大札が恙無く執り行われるようにとの願いを込め、平成の御代替りの際にも行われたという全国の青年会が同日同時刻に行う天下大祓を斎行致しました。これほど多数の事業を行うことができたのも会員皆様の協力があつたからこそと改めて感謝申し上げます。

また昨年は当会の恒例行事にも変化のあつた年となりました。二十年近く継続されてきた御田植祭・抜穂祭は、神田主滝口良一様のご都合により令和元年の収穫をもちまして休止とさせていただきました。長年続けられてきた事業を途絶えさせてしまうことは諸先輩方には非常に申し訳ないことでございますが、今後もまた継続できる新たな事業を立ち上げていきたい存じます。また多年に渡り神田を提供、米作り事業にご協力をいただきました滝口様には心より感謝申し上げます。

その一方で数年ぶりに家族親睦会の再開を試み、那須にて家族を含めた会員同士の親睦を図りました。現役の会員では以前行っていた家族会を知らない会員がほとんどでしたので、その分とても良い経験になつたかと思います。近年は親睦事業が少なくていきましたので、会員の親睦を図れる事業も発展させていきたい存じます。また研修事業にも一層力を入れ、祭式をはじめ様々な研修や勉強会を開催していくたいと考えております。会員相互の研鑽と親睦を深めるという本会の目的を達成できるよう努めて参る所存です。

また来年度は神青協一都七県の当番県となり、さらに栃木県から神青協関東地区理事を選出することになります。地区理事の大役を務める会員を支えられる体制を整え、会員同士の結束を強めて当番県の役割もしっかりと果たせるよう、会員の皆様には今後益々の活動へのご参加・ご協力をいただきますよう、また関係各位の皆様におかれましてもより一層のご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

天下大祓

八月三十日、神道青年全国協議会主催による天下大祓がむすび会を主管として県神社庁の講堂において行われました。

天下大祓は御代替わりの年に行われる臨時の大祓であり、神道の中でも最重儀である大嘗祭に先立つて全国一斉に行うことを本旨としています。『延喜式』卷第七践祚大嘗祭の項にも「凡大祓使者、八月上旬ト定差遣。左右京一人、五畿内一人、七道各一人。下旬、更ト定祓使差遣。」とあり八月にト定によつて大祓使を各地に派遣していたことが記されています。平成の大嘗祭の際には神社本庁においては全国の被包括神社に祭儀の二日前の臨時大祓を斎行することを通達しましたが、神青協ではそれに加え八月の大祓を古儀に従つて自発的に行い、今回も前回の例に習つて各県の青年会で全国一斉に行われることになりました。

当日午前に研修会を兼ねて県神社庁祭式講師である篠田薰先生に大祓についての講釈をいただき、どのような式次第を以て行うか協議をいたしました。大祓詞は元々中臣氏が宮中文武百官の前で宣り下していたものであるのでそれに従えば読み上げるのは祓主一人だけになるはずですが、現在では多くの神社で奏上体として神前に奉読しており、また今回の趣旨からいつても全員が心を一にして神前向きに読み上げるのがいいだろとうことになりました。

正午きつかりに斎行され、大祓詞奏上に続き形代祓い、大麻での祓い、裂布の儀を以つて無事に終了いたしました。当日は新聞やテレビなどマスコミ各社が取材に訪れており、田邊会長がインタビューに応じて天下大祓の意図について説明をしておりました。大嘗祭に際して栃木県は先の斎田点定の儀で悠紀の国に選定されており、県内神職ごぞつて奉祝事業を行うのはもちろんのこと、一般の方々にもその意義を認識してもらうことは非常に重要であると考えます。自分自身、前回の平成の大嘗祭の時は未だ年少だったこともあります。本や講義での知識として知つてはいても実際に体験をするのは今回が初めてのこととなります。古代より連綿と続く祭儀をこの同時代に体験できるというのは我が万邦無比の國体のなせるところと感じ入る次第です。

後に報道を見たところによるとやはり他の各県も様々なやり方を以つて大祓を同時刻に執り行つておりました。全国の青年神職と共に私も今回の行事に末席ながら加われたことを光榮に思います。

(古峯神社 池口敦)



大嘗祭悠紀地方斎田抜穂の儀

斎田抜穂の儀用務助勢を経験して

本年五月一日、天皇陛下が践祚なされ、「元号が「令和」と改まりました。五月十三日に行われた「斎田点定の儀」では、十一月十四日・十五日に行われる大嘗祭の神饌となるお米を作る悠紀地方・主基地方に、栃木県と京都府が選ばされました。この誠に有難い名誉を、県内神職の皆様・氏子崇敬者の方々と共に、心からお祝い申し上げたいと存じます。

当県が悠紀地方にト定されると、どの地区が斎田に選ばれるのか、大田主は誰が務めるのか、といった話題で持ちきりになりました。私の地元高根沢町も県内有数の田園地帯ですが、まさか、私の兼務神社が鎮座します大谷地区から大田主が選出されるとは思つてもみませんでした。

斎田並びに大田主が公になると、神社序経由で宮内庁から連絡があり、「斎田抜穂の儀」に関する用務助勢の御依頼をいただきました。その際、宮司と共に助勢をさせていただきましたが、これらを担う若い世代に貴重な経験をしてもらいたいという御意向をいただき、当会の田邊会長と共に助勢へ行つて参りました。

「斎田抜穂前一日大祓」の前日、宮内庁掌典職・掌典補である下條様と合流し、早速祭具の荷下ろしや装束の荷解きを行いました。その後、大祓を斎行する鬼怒川河川敷へ移動し、習礼に伴う斎場の舗設を行い、習礼を見学させていただきながら、斎場の確認等を行いました。舗設の仕方や祭式行事作法、神饌の盛り方等は、初めて目にする事ばかりで、掌典補の下條様がその都度丁寧に説明してくださいました。

次の日は、午前中に抜穂の儀斎場へ祭具等を運搬し、昼食後大祓斎場にて舗設を行いました。「斎田抜穂前一日大祓」が無事斎行された後、一同斎田へ移動し、「斎田抜穂の儀」の習礼を行いました。

田主と奉耕の方々は、当日粗相が無いよう日が落ちるまで各自の役割を入念に確認しておりました。

そして、令和元年九月二十七日。真夏を思い起こさせる太陽の下、「悠紀地方 斎田抜穂の儀」が、抜穂使、福田栃木県知事・加藤高根沢町並びに県内関係者参列の下、恙なく執り行われました。

私達は祭典には一切参列せず、「斎田抜穂前一日大祓」並びに「斎田抜穂の儀」がどのように斎行されたか拝見することはかないませんでした。しかし、「準備八割」という言葉の通り、何事も習礼や事前の準備等がいかに大切であるかということを、掌典職の方のお仕事を間近に拝見し肌身に感じました。

三日間という短い期間、宮内庁掌典職の方と一緒に大嘗祭の一端を担う儀式の助勢が出来ました事は、神職として大変誉な事と改めて実感するとともに、皇室尊崇と神宮崇敬の念をあらたに、今後とも日々神明奉仕に勤しみ励んで

いきたいと思う所存です。

(津嶋神社 岩松史恵)



新帝陛下御即位奉祝御朱印展（栃木の神社巡り）

日時 令和元年五月十四日～二十日
場所 東武宇都宮百貨店

当会では上皇陛下の御譲位により、新帝陛下が御即位あそばされ新しい御代が始まりましたことを祝し、御大礼奉祝事業として『新帝陛下御即位奉祝御朱印展（栃木の神社巡り）』を、東武宇都宮百貨店にて令和元年五月十四日から一週間の日程で開催致しました。

御朱印展の企画といたしましては、昨年に引き続き二度目の開催となりましたが、近年の「御朱印ブーム」はとどまる気配がなく、多くの寺社に御朱印を受ける参拝者が連日訪れ、テレビや雑誌などでも特集が組まれるなど、御代替わりを迎える賑わいと関心を集めています。当会では御朱印への関心を御皇室に対する尊厳護持の機運醸成の一助となすべく、斯界の先兵として県内先駆けて奉祝事業としての御朱印展を企画するとともに、この「御朱印ブーム」を一過性のもので終えるのではなく、県内神社に向けた教化広報活動の好機と捉え再び開催した次第です。

二度目の開催となりましたので、前回以上の御朱印や御朱印帳の展示を目指すとともに、御代替わりを国民あげての一大慶事とすべく、御大礼を記念した御朱印の提供を県内の会員神社や当会先輩の神社へ依頼したところ、通常の御朱印が八十六社、御朱印帳が二十二社、御大礼奉祝の御朱印が二十四社と、前回を大きく上回る県内神社の御朱印・御朱印帳の展



示が実現し、この度御協力頂きました宮司様方の御朱印への期待の高さを伺い知ることができました。改めて御協力頂きましたことに感謝を申し上げます。

御朱印展では、御朱印・御朱印帳の展示だけではなく、御大礼に関する特設スペースを設け、来場者に対し御大礼の意義や今後の流れを紹介するパネルを展示了しました。

開催期間中は会員が複数名在中し来場者への対応を行い、御朱印の紹介や各社への参拝を促進するパンフレットを配布するとともに、神社本庁発行の御代替わりに関する教化冊子を配布致しました。御大礼の展示パネルを熱心にご覧になる来場者の様子から、御代替わりや御皇室への関心の高さを実感することができました。

多くの会員の協力のもと、開催期間中何事もなく無事に終えることができ、来場者は約五千三百人を数えました。百を超える御朱印を前に、圧倒される来場者の姿に喜びを感じるとともに、御朱印から信仰へと結びつけることを我々青年神職の課題とし、今後の活動に繋げて参りたいと思います。

（白鷺神社 上野敬則）



御大礼奉祝とちぎの神社御朱印展

日時 令和元年九月十一日～十六日
場所 F K D 宇都宮店



神道青年全国協議会夏期セミナー参加報告

去る八月二十七日・二十八日に神社本庁に於いて、令和元年度神道青年全国協議会夏期セミナーが開講された。本年は「新しい御代の強化活動」と主題を掲げ、新しい制度・思潮・技術・文化を積極的に取り入れ、青年神職として時代に適応した教化活動を開講する素地を取り入れ、青年神職として時代に適応した教化活動を開講する素地を養うべく各界から三名の講師をお招きし、緊張感漂う中講義は行われた。

講義の内容としては、践祚大嘗祭に関する基礎知識を再確認すると共に、従来の右派・左派では割り切ることのできない言論界の情勢、また平成二十七年九月に国連サミットに於いて採決された「持続可能な開発目標（SDGs）」について理解を深めた。

まず践祚大嘗祭の講義についてだが、神職を対象とした講義だけにより踏み込んだものになると予想したがそのようなことはなく、氏子崇敬者へとわかりやすく伝えられるようという趣旨のもと、基礎的知識をしつかりと押さえた講義となつた。

次に言論界の情勢とSDGsについての講義はとても興味深い内容であった。特にSDGsは国際的に徐々に広がりを見せる取り組みであり、まだまだ日本ではなじみの薄いものだが地方自治体や企業では少しずつ広がりを見せている。身近な例でいうと、宇都宮市はSDGs未来都市として選定され、持続可能な開発を実現するためのモデル都市として政府より支援を受けており、全国的に見ても宇都宮市の先進度は高い水準に達している。

新しい御代を迎える、外国人の来訪者数は年々増加しオリンピックや万博など国際的に注目を集め、催しが控える中、青年神職として日本国民の精神的基盤である神社を護持運営していくと同時に、国際社会へ向けて古来より大切にされてきた神道精神の発信と国際基準に則した神社運営と教化活動が必要なのだと考える。

祭式研修会

八月三十日、神社庁において祭式研修会が開催されました。篠田薰先生を講師にお迎えし、会員以下会員十名が参加致しました。

午前は大祓式の法令等の解説や式次第について講義の後、敬礼作法など基礎作法について確認を行いました。拝の角度が違つてたり、笏の位置がずれているなど様々な指導を受け、知らず知らずのうちに癖がついてしまっているということを実感しました。今回の研修はその様な癖を正す良い機会となりました。

午後は衣紋の研修として、正服の着装の練習を行いました。私はいつも正服を自分で着装するときは時間がかかってしまいます。今回は篠田先生の指導を頂き、また受講生の皆で改善点を指摘しながら練習を行い、早く綺麗に着装する術を学びました。

質疑応答では献饌で水玉の蓋を置くときは何處に置くのが良いのか、また浅舟の履き方の作法だけでなく、恒例祭・雑祭問わず式次第ごとにどの様な作法を行えば適切な作法になるのかと言った質問が寄せられました。全ての質問に対しても真摯に、また的確にお答え頂いている篠田先生の姿とその知識の深さに感銘を受けました。作法の一つ一つには意味があり、その意味を理解して祭典に望むことの重要さを学びました。

この研修会を通じて、流麗な作法ができるようになるためには、その作法は何故今現在の形で行われているのかと言った意味についてを理解していくことが大事であると学びました。また、自分の作法はまだまだ未熟であるということも痛感しました。作法が時々おかしくなっているか、確認するようにしています。ここで得た教訓を生かして、流麗な作法ができるよう研鑽していきたいと思います。

(宇都宮荒山神社 矢部貴也)



親睦会

立秋が過ぎ秋の訪れを迎えた八月十九日、当会員とそのご家族を対象とした「家族親睦会BBQ」が那須塩原市の那須フィッシュランドにて開催されました。季節的にも天候が心配されましたが、当日は曇りで暑さも和らぎ、とても過ごしやすい気温のなか、田邊会長を始め会員ご家族合わせて総勢二十二名が参加し、その内九名は子供達の参加となりました。

会場となつた那須フィッシュランドには、様々な虫や動物が生息する自然豊かな場所で、那須連山から流れ清流は透明度が高く、触るとひんやり冷たい水の中をニジマスやヤマメが気持ち良さそうに泳いでいました。

先ず始めて魚釣り大会が始まり、子供達が真剣な眼差しで魚を追いかけ、釣れたときの嬉しそうな表情や釣れなかったときの悔しそうな顔がとても印象的でした。想像していたよりも難しく、気が付くと大人も子供と一緒に夢中で魚釣りを楽しんでいました。子供達には自然や生き物に触れ肌で感じることで心身の成長に繋がり、感情豊かな人に育つてもらいたいと思いました。

お昼のバーベキューでは、お肉や野菜の他にそれぞれが釣った魚を塩焼きや唐揚げにして皆で食べました。自分で釣った魚は格別においしく、改めて自然の恵みと命の尊さを学びました。

今回の家族親睦会では、会員同士親睦を深めるのは元より、普段あまり交流が出来ない会員のご家族とも意見交換が出来たことで、当会の活動に一層の理解が深まり、これからも様々な事業に取り組んで行けるよう活動して参りたいと思います。

(天満宮 越口政典)



会報むすび

御田植祭

拔穂祭



平成の時代が終わり新しい天皇陛下が即位をされ、新元号令和になりました。「令和」は、日本最古の歌集である万葉集から引用されました。厳しい寒さの後、春の訪れを告げるよう咲く梅の花のように、一人、一人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる日本でありたいという願いが込められているそうです。令和で初めての御田植祭が五月八日に執行されました。十八回目を数える本行事は、那須烏山市志鳥の滝口様が管理されております御神田にて、栃木県神社庁南那須支部長岡田和磨様をはじめ南那須支部の先輩方にも御参列をいただきました。当日は、晴天にめぐまれて、上野副会长祭主のもとお祭りは、滞りなく執行されました。どのお社でもその年の収穫に感謝をするお祭り新嘗祭が十一月二十三日にございます。新嘗祭とは五穀豊穣の収穫祭にあたり、新嘗の「新」は初穂を意味し、「嘗」は御馳走を意味します。天照大御神はじめ天神地祇に初穂をお供えして、神様の恵みによつて初穂を得たことを感謝するお祭りです。私は、初めて御田植祭に参加させていただきました。食べ物を作る大変さを知つた貴重な経験でした。こういった苦労があり、私たちが何気なく口にしているお米が作られているのだと思うと一粒一粒の人に感謝の気持ちをもつて日々生活していくなくてはいけないと感じました。

当日、御奉仕ご協力を頂きましたみなさまありがとうございました。

(日光) 荒山神社 三田真隆

むすび会では十八年もの長きにわたつて滝口良一様のご協力を頂き御田植祭及び抜穂祭を執り行つてきましたが、誠に残念ではございますが本年をもちまして最後とさせていただくこととなりました。滝口様には神田をお貸しありましたこと、感謝に堪えます。長い間、本当にありがとうございました。

(大前神社 齋藤隆倫)



去る九月三十日、まだ残暑の厳しい気温のなか、那須烏山市の神田にて毎年恒例の抜穂祭が執り行われました。本年は南那須支部総代会の方々にもご参列をいただき、斎主・岩松副会长、祭員・越口事業親睦委員長のもと祭典は肃々と執り行われ、祭典後の稻刈り奉仕では南那須支部総代会の方々に稻の刈り方や干し方などを懇切丁寧にご教授いただきました。本年は御代替わり、また栃木県が悠久紀地方に選定されたこともあるつてか、参加者全員が例年以上に心を込めて奉仕しているように感じました。本年の稻刈りは全て手作業で行われ、暑さも相まって作業は非常につらいものではあります。が、皆で苦労を共にしたことにより会員同士の絆も深まつたのではないかと思います。それと同時に機械のない時代の方々の苦労を体験することができ、先人達の偉大さを改めて考えさせられる良い機会になりました。

那須烏山市に於ける抜穂祭は、昭和四十年代より毎年恒例で執り行われています。本年は南那須支部総代会の方々にもご参列をいただき、斎主・岩松副会长、祭員・越口事業親睦委員長のもと祭典は肃々と執り行われ、祭典後の稻刈り奉仕では南那須支部総代会の方々に稻の刈り方や干し方などを懇切丁寧にご教授いただきました。本年は御代替わり、また栃木県が悠久紀地方に選定されたこともあるつてか、参加者全員が例年以上に心を込めて奉仕しているように感じました。本年の稻刈りは全て手作業で行われ、暑さも相まって作業は非常につらいものではあります。が、皆で苦労を共にしたことにより会員同士の絆も深まつたのではないかと思います。それと同時に機械のない時代の方々の苦労を体験することができ、先人達の偉大さを改めて考えさせられる良い機会になりました。



令和元年度むすび会事業報告

(令和元年)

四月 九日 むすび会会計監査会並びに

第一回役員・委員長会議

栃木県神社庁

九月 三十日 むすび会抜穂祭

第五回役員・委員長会議

那須烏山市

四月 十七日 神青協創立七十周年記念大会

宇都宮市内

十月 二日

第三回一都七県協議会定例会議

栃木県神社庁

十月 二日

国旗掲揚推進活動

宇都宮三荒山神社

四月 十八日 神青協第七十一回定例総会

明治記念館

十一月 九日

天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典

皇居前広場

四月 二十六日 第一回一都七県協議会定例会議

神社本庁

十一月 二十八日

第六回役員・委員長会議

栃木県神社

四月 二十八日 栃木県護国神社例祭助勤奉仕

神社本庁

十二月 二十八日

忘年会

宇都宮市内

五月 八日 むすび会御田植祭

那須烏山市

十二月 二十八日

第四回一都七県協議会定例会議

那須烏山市

五月 十四日 第二回役員・委員長会議

栃木県神社

十一月 二十八日

忘年会

栃木県神社

五月 二十日 新帝陛下御即位奉祝御朱印展

東武宇都宮百貨店

十一月 二十八日

第六回役員・委員長会議

那須烏山市

五月 二十一日 とちのみ学園神棚祭

佐野市

十一月 二十八日

第七回役員・委員長会議

那須烏山市

五月 二十三日 第三回役員・委員長会議

栃木県神社

十一月 二十八日

新年会

栃木県神社

五月 二十四日 令和元年度定例総会

東武ホテルグランデ

十一月 二十八日

新年会

宇都宮市内

六月 九日 昇級者祝賀会・懇親会

栃木県神社

十一月 二十八日

第五回一都七県協議会定例会議

宇都宮市内

六月 九日 第二十九回神青協一都七県定例総会

宇都宮市内

十一月 二十八日

建国記念の日奉祝式典・パレード

宇都宮市内

七月 九日 那須御用邸清掃奉仕活動

宇都宮市内

十一月 二十八日

神青協一都七県協議会研修旅行会

宇都宮市内

七月 二十二日 第四回役員・委員長会議

宇都宮市内

十一月 二十八日

第二回一都七県協議会定例会議

宇都宮市内

八月 二日 親睦会

宇都宮市内

十一月 二十八日

第三回役員・委員長会議

宇都宮市内

八月 二十九日 天下大祓・祭式研修会

宇都宮市内

十一月 二十八日

第二回一都七県協議会定例会議

宇都宮市内

八月 二十七日 神青協夏期セミナー

宇都宮市内

十一月 二十八日

第四回役員・委員長会議

宇都宮市内

九月 二十一日 御大礼奉祝とちぎの神社御朱印展

宇都宮市内

十一月 二十八日

第一回役員・委員長会議

宇都宮市内

※その他 執行部会、役員会、役員・幹事・正副委員長会
を必要に応じて開催

新入会員



須藤 茂成

奉職先 日光一荒山神社
役職 権禰宜

自分を一言で表現して下さい 変わり者
これから抱負をお願いします
誠心誠意 一荒山の大神様にお仕えしてまいります。



手塚 健太

奉職先 日光一荒山神社
役職 出仕

自分を一言で表現して下さい 元気!!
これから抱負をお願いします
栃木県の神社界を盛り上げたいです。



小幡 仁

奉職先 鹿島神社
役職 権宜

自分を一言で表現して下さい 気分屋
これから抱負をお願いします
一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思います。



人見 圭祐

奉職先 宇都宮一荒山神社
役職 出仕

自分を一言で表現して下さい 全力
これから抱負をお願いします
多くの方と交流を深め、心豊かな神職を目指したいです。

篠崎 博哉

祝 御結婚

奉職
新婦氏名
新郎のつぶやき
入籍日
平成三十一年一月二十三日
宇都宮二荒山神社
沙文

暖かい家庭を築いて行きます。

小林 迪寛（第一子）

祝 御誕生

お名前
誕生日
お子様へ一言
小林凜香
令和元年八月十七日
元気に育ちますように。

和田 晋典（第二子）

お名前
誕生日
お子様へ一言
和田実莉
令和元年十月一日
可愛い寝顔と素敵な笑顔で毎日癒されます。
これからもよろしくね。

【北那須支部】 加茂神社 愛宕神社
大田原神社 大田原神社 三島神社
那須神社 乃木神社 乃木神社
八幡宮 鹿島神社 温泉神社
湯泉神社 黑田原神社 日光一荒山神社
日光一荒山神社 日光一荒山神社 日光一荒山神社
古峯神社 古峯神社 古峯神社

宮司 宮司

磐根神社	磐根神社	磐根神社	磐根神社	貴船神社	報德二宮神社	古峯神社
大神神社	春日神社	琴平神社	琴平神社	高龕神社	瀧尾神社	瀧尾神社
鷦宮神社	磐根神社	琴平神社	清瀧神社	平田神社	岩崎神社	岩崎神社
磐根神社	磐根神社	琴平神社	賀蘇山神社	今宮神社	平田神社	平田神社
磐根神社	磐根神社	琴平神社	賀蘇山神社	今宮神社	高龕神社	高龕神社
磐根神社	磐根神社	琴平神社	賀蘇山神社	今宮神社	瀧尾神社	瀧尾神社
磐根神社	磐根神社	琴平神社	賀蘇山神社	今宮神社	岩崎神社	貴船神社

禰宜 宮司 宮司 権禰宜 権禰宜 宮司 禰宜 宮司 宮司 権禰宜 権禰宜 宮司 宮司 権禰宜 権禰宜 宮司 宮司 権禰宜 権禰宜 宮司 宮司 権禰宜 権禰宜

新新菱荒大阿関関關 橫横篠岡下福山下狐川川田和田福阿
井井沼川久口口口 瀬瀬田本妻田田妻塚村村邊田中田内部
隆健至育岩智尋光一 勝勝俊大財和良堯好一教喜節修
宏志広子貴哉子郎 宣壽薰和介大之夫久一一丸義文光史一

諏訪神社	日枝神社
胸形神社	須賀神社
八幡宮	野木神社
野木神社	雄琴神社
須賀神社	熊野神社
八幡宮	鷲宮神社
鷲宮神社	磐裂神社
星宮神社	星宮神社
安佐支部	鷲宮神社
唐澤山神社	唐澤山神社
朝日森天満宮	星宮神社
星宮神社	赤城神社
赤城神社	星宮神社
賀茂別雷神社	雀神社
賀茂別雷神社	雀神社
宇都宮神社	朝日森天満宮
加茂別雷神社	星宮神社
示現神社	赤城神社
八坂神社	星宮神社
浅間神社	雀神社

宮司													
司	司	司	司	司	司	司	司	司	司	司	司	司	司
禰宜													

石宮	木影	八下	八下	毛利	新井	早乙女	永澤	新村	佐野	白井	後藤	黒川	栗沼	櫻木
田	田	村	山	田	田	晶宏	竹貢	長竹	新竹	宇賀神	清一	藤正	原海老沼	倉千
雅	義	直	幹	承	勇	晴	晶	貢	竹	小林	義靖	邦美	原城	教裕
寿	丸	樹	男子	人喜	巖子	昭子	宏	正治	行		宣雄	邦堯	治成	琢也

【足利支部】

日光鹿島神社	宮司
日光鹿島神社	禰宜
御厨神社	宮司

宮司	宮司
----	----

令和二年三月三十一日現在

小野寺 建富	小野寺 由子
小堀俊夫	

賛助会員各位

お陰をもちまして多くの先輩諸兄にご賛同賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

神道青年全国協議会の事業をはじめ神青協一都七県協議会の諸事業への研修会参加費の助成をさせて頂きました。

今年度も会員一同、自己研鑽と斯界の発展を目指し、邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(会長 田邊雅祥)

総合印刷

(株)井上総合印刷

代表取締役会長 井上 光夫

代表取締役社長 井上加容子

本社 宇都宮市岩曽1355

TEL(028)661-4723

FAX(028)662-7607

宮内庁 神社本庁・栃木県神社庁・各県神社庁
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場
御用達株式
会社**大槻装束店**

代表取締役 大槻 奈津子

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-13-2

<http://www.ootsuki-shozokuten.com>
E-mail:info@ootsuki-shozokuten.com

千代田線・湯島駅徒歩4分／銀座線・末広町駅徒歩6分

電話：03-3835-3201 FAX：03-3835-0617

神祭具 授与品 記念品 奉製

株式
会社**神路社**

本社

〒516-8611 三重県伊勢市 岩渕2丁目5番29号 (私道西第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110E-mail: info@kamijisya.co.jp

神苑(東日本営業所)

〒150-0013 東京都渋谷区 恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721E-mail: info-tokyo@kamijisya.co.jp<http://www.kamijisya.co.jp>

お伊勢参りのお食事とお土産は

宇治橋より歩いて30秒

**岩戸屋**

伊勢名物 岩戸餅 生姜糖

〒516-0024

伊勢市宇治今在家町58番地 インターネット販売もしております。
TEL 0596-23-3188
FAX 0596-28-1322<https://www.iwatoya.co.jp>E-mail: info@iwatoya.co.jp**足袋・和装用品専門店**

ふくせい

**株式会社 福生**

〒590-0953

堺市堺区甲斐町東1丁2-30

フリーダイヤル 0120-29-0051

F A X 0120-29-0052

ホームページ <https://www.tabiya.net>**全国各神社御用達**神符・守札・木札・錦守・御守矢・交通安全守
集印帳・御守り袋・絵馬その他各種御札・御守
奉書紙・書道半紙・耐水奉書・他各種和紙謹製

創業江戸時代後期 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 和弘

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11

電話 055 (272) 0514

FAX 055 (272) 8818

【高級】各種金襴錦守・木札・紙札・ステッカー
【西陣織】 絵馬・木彫・土鈴・袋束・撒餌・記念品御社ならではの御守をオーダーメイドで奉製いたします
色・柄・形などお気軽に御相談ください**京都奉製株式会社**京都本社／東京営業所
仙台営業所／福岡営業所TEL. 0120-164124 (イロヨニシキ) <http://www.omamori.co.jp>

御社頭授与品奉製

※御希望通りの御調製申し上げます。
御一報次第参上致します。

新日本工芸株式会社

〒311-4153
茨城県水戸市河和田町3891
電話 (029) 251-0997(代)
FAX (029) 252-8287



神棚に御札をおまつりし
家内の安全をお祈りいたしましょう

△神宮会館
伊勢神宮御守



坂眞神棚(中)
外寸幅46×奥44×高20cm
内寸幅12.5×奥32×高8cm
10,000円(税込)



洋風神棚
外寸幅20.6×奥30.6×高8.2cm
おまつりできるお札(最大) 角版
2,000円(税込)



茅葺神棚(中)
外寸幅57.5×奥51.5×高37.5cm
内寸幅21.5×奥33×高8cm
50,000円(税込)

*茅葺神棚・坂眞神棚の大きさは各(大)(中)(小)がございます。*台上に壁掛け用の両面もございます。
種類・方法など詳しくはホームページ <http://www.jingukaihan.jp/> をご覧頂くか、カタログを請求ください。

TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517 E-mail tsuhan@jingukaihan.jp

各授与品、記念品奉製

金襷錦守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
TEL 029-251-2051(代) FAX 029-253-5844
E-mail sanaikougei@movie.ocn.ne.jp

社寺建築請負い

株式会社 石川工務店

代表取締役 石川 明

〒321-1406 栃木県日光市松原町1233番地

TEL 0288-54-0750

松岡計量器



〒503-0888

岐阜県大垣市丸の内1丁目64番地

電話 0584-78-2364

御装束・御社殿装飾調度・祭器具

家庭用御宮各種・授与品・記念品

(株)高善装束店

代表取締役 桑 茂雄

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-2-9

TEL 03(5815)8771

FAX 03(5815)8772

営業品目

縁起物入りみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金襷錦守・各種熊手・守護矢・朱印帳

おまもりの奉製

株式会社 阿部

〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡 5203-1

TEL (0282) 62-1010 (代表)

FAX (0282) 62-2061

<http://www.kk-abe.co.jp>

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念品奉製
天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ
御一報次第力タログ御送り致します。
 グリーン産商株式会社
〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL(06)6702-6009(代表) FAX 0120-34-2996

県内各神社様、工事拝命先 (順不同)

日光 東照宮	矢板 木幡神社
日光 二荒山神社	小川 温泉神社
宇都宮二荒山神社	足利樟崎八幡宮
真岡 大前神社	佐野人丸神社
大田原那須神社	下野一社八井神社
西那須野乃木神社	祖母田神社
氏家今宮神社	足利八雲神社
足利星宮神社	一瓶塚稻荷神社

株式会社 小西美術工藝社

〒321-1421 栃木県日光市所野2829-1
 〒108-0014 東京都港区芝4-4-5 JHKEビル3階
 TEL 日光(0288)54-1198(代) TEL 東京(03)5765-1481(代)

授与品専門奉製所

帝陸神宝(株)

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail : info@suzuki-kisho.co.jp
<http://www.suzuki-kisho.co.jp>

〈営業品目〉

- 交通安全御守護
- 開運招福鈴
- 文鎮 金盃
- 各種記念品類
- 胸像・レリーフ・鋳造類

御社頒授与品
御參拜記念品
立派御製

The image is a New Year's card. At the top right, it says 'あけましておめでとうございます。25th 壱年元日' (Happy New Year 2025). The central figure is a cartoon character dressed as a samurai, holding a sword. To the left is a cat-like animal, and to the right are two smaller characters, one holding a sword and another holding a fan. The background features a sunburst pattern and the company's name 'Kōnan Printing' vertically on the left.

編集後記

先ず以つて、本年も「会報むすび」が発行できました事は、御協賛を賜りました各社皆様方、ご多忙中にもかかわらず御寄稿御協力を下さいました皆様の御蔭でございます。衷心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、御代替りに伴う御大礼の諸儀式も大略恙なく執りおこなわれまして、国民斎しく上皇陛下に感謝の誠を捧げるとともに、新帝陛下の御即位を盛大に慶祝申し上げることができました。また、「斎田点定の儀」に於いて、本県が光栄にも「悠紀地方」に選定されまして、「奉祝田」を設け、神事を通じて祓い清め、無事にお米を献上出来ましたことを大変嬉しく思います。

「美しい調和」を意味するともいわれる令和の元号のもと、わが国の麗しい歴史、伝統に則つて祭祀の厳修に努めると共に、氏子崇敬者、神社興隆の為に、当会、「栃木県青年神職むすび会」も田邊会長の下、一致団結し様々な事業に邁進して参ります。今後とも変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、結びに皆様の弥栄とご健勝をお祈り申し上げます。

広報委員会名簿

委員長

副委員長

黒本 裕子

黒川 寧子

委員

板垣 喜充

秋元 亮平

林 靖大

福田 直之

高橋 林之介

半田 誠也

篠崎 博哉

三田 真隆

小堀 巧人

小幡 仁

栃木県青年神職むすび会 頒布品



着帯のお祝い(安産祈願) 腹 帯 (岩田帯)

頒布価格(1箱) 1,000円(送料別)

くじら尺を用いて、縁起の良い7尺5寸3分(約3m)に裁断し、高級感ある桐箱に納めました。

中の帯は、縦に二つ折にし、巻き納めてあります。(解説書在中)
注文からお届けまで、お時間をいただく場合があります。
納期に余裕をもって、ご注文ください。

ご注文
問い合わせ

〒321-3324 栃木県芳賀郡芳賀町西水沼1723(天満宮内)

栃木県青年神職むすび会

事業・親睦委員会 委員長 越口政典 宛

【ご注文はFAXにて受付致します】

FAX.028-678-1170

TEL.028-678-1138

